

NODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



筑紫紀行

六

ル呂A
344
6



八品
344
卷 6



筑紫紀行卷六

五月三日空晴なり。胡宿^{ヤマノ}宿^ノふいぎなるとれ。彼役場小行。那夜^{ナヤ}舟^{フネ}付^ツ付^ツ来り^キらり^リと通^トぜ^ゼめ^メま^マされ^レば^バ百^{ヒャク}日^{ニチ}限^{ゲン}の^ノ滞^{テイ}留^{リウ}を^ヲ許^ヨさ^スる^ル。旅^{リョ}人^{ニン}方^{カタ}乃^ハ役^{ヤク}場^{ジョウ}の^ノ八^{ハチ}即^{トク}改^カ役^{ヤク}の^ノ宅^{タク}に^テ改^カ役^{ヤク}ハ^ハ彼^カ所^{ショ}乙^ニ名^ナの^ノ中^{ナカ}ま^ニ加^カ役^{ヤク}小^コ行^{コウ}付^ツる^ル。

そ^レを^シて^ハ其^ノ所^ノ乙^ニ名^ナを^シ材^{サイ}木^キ町^{チヨウ}乃^ハ乙^ニ名^ナと^シて^ハあ^ノ人^ヲを^シ動^ユむ^ル。け^レ月^{ツキ}は^ハ西^ニ中^ノ町^ノの^ノ月^{ツキ}番^{バン}ふ^く其^ノ所^ノ乙^ニ名^ナ乃^ハ役^{ヤク}場^{ジョウ}ハ^ハ狭^ス刀^{トウ}子^シ渡^{ワタ}捕^ツ縄^{ナフ}糸^{イト}を^シ設^セけ^ルた^リ。下^ノ役^{ヤク}令^ヲい^はす^ル。六月^{ロクゲツ}乃^ハ使^シ之^ヲ。名^ナ古^コ屋^ヤを^シて^ハけ^レ地^チ町^{チヨウ}敷^シす^く七^{シチ}十^{ジュウ}町^{チヨウ}お^し子^シ寄^ヨ合^カ町^{チヨウ}丸^{マル}山^{サン}町^{チヨウ}と^シて^ハ遊^ユ女^メ町^{チヨウ}二^ニ丁^{テイ}何^{ナニ}を^シ合^カせ^しむ^す。七^{シチ}十^{ジュウ}丁^{テイ}乙^ニ名^ナ敷^シ一^{イチ}万^{マン}四^{シヨウ}五^ゴ千^{セン}軒^{ケン}一^{イチ}町^{チヨウ}ご^とに^テ乙^ニ名^ナ一^{イチ}人^{ニン}紐^ニ改^カ二^ニ人^{ニン}月^{ツキ}乃^ハ使^シ一^{イチ}人^{ニン}を^シ外^{ソト}子^シ下^ノ役^{ヤク}あ^ノ人^ヲあ^ノ乙^ニ名^ナの^ノ役^{ヤク}料^{リョウ}一^{イチ}千^{セン}兩^{リョウ}貫^{クワン}目^メづ^く。紐^ニ改^カハ^ハ四^{シヨウ}百^{ヒャク}三^{サン}十^{ジュウ}月^{ツキ}乃^ハ使^シハ



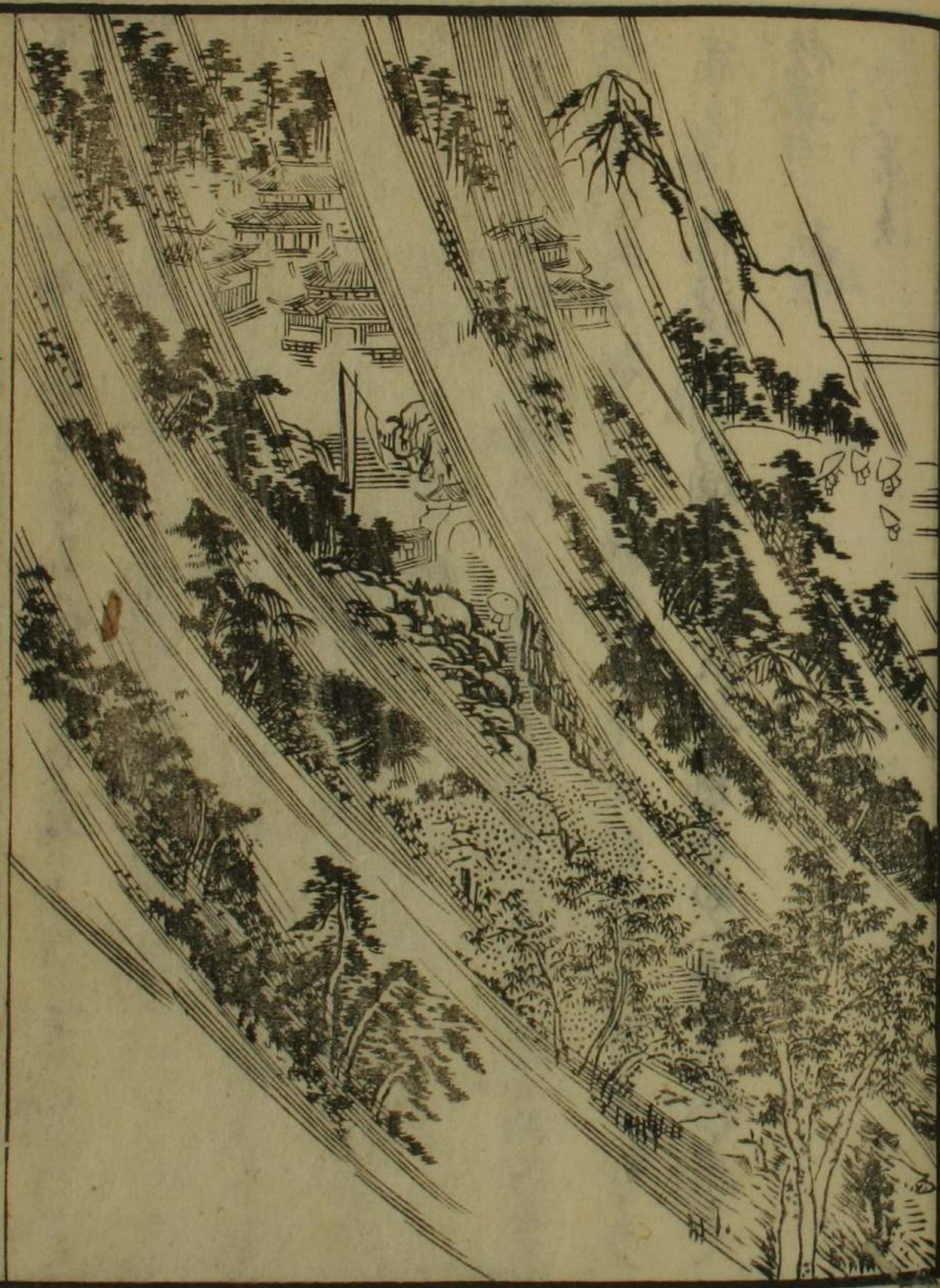
○卷六

（巻六）

三六

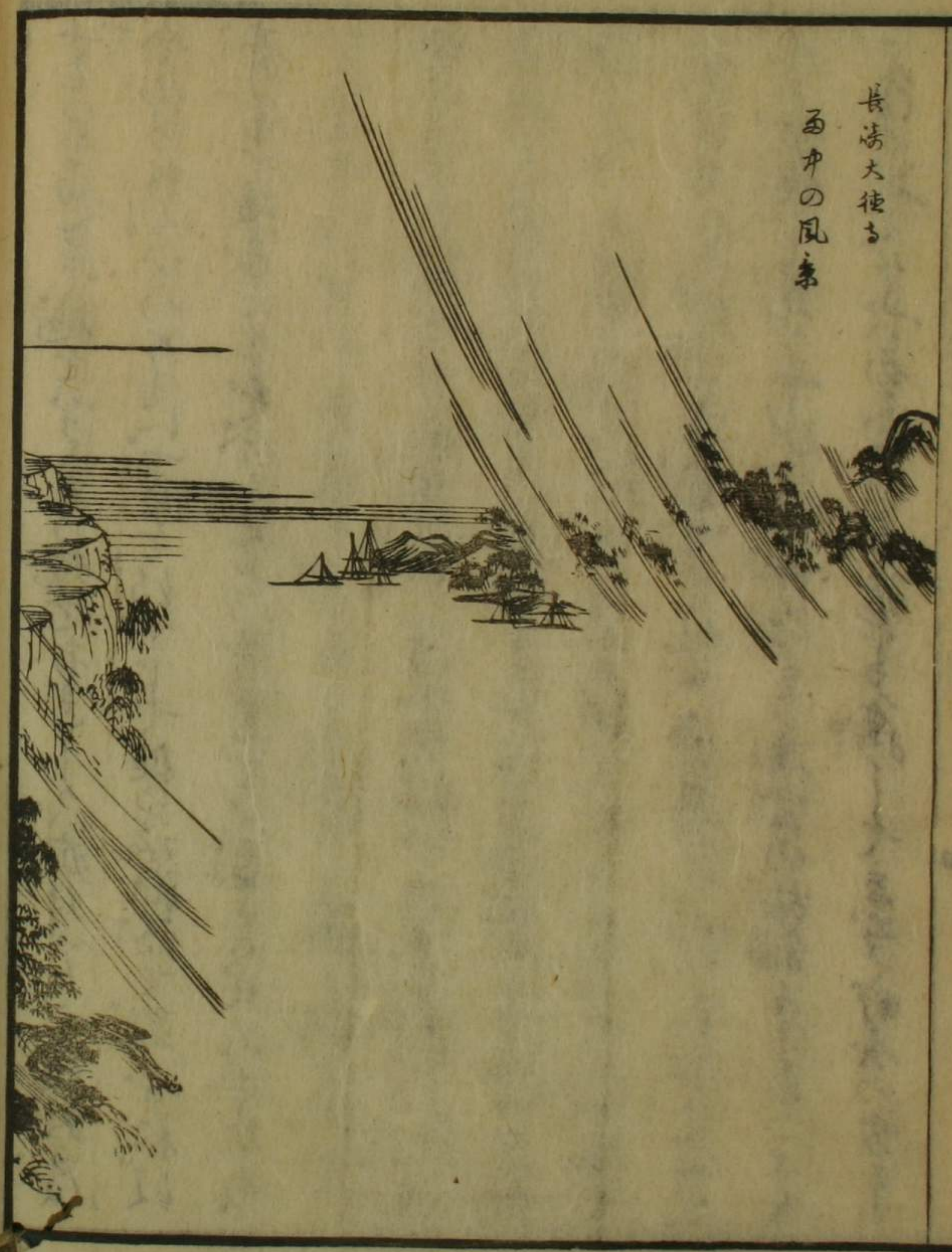
四百目皆むね公こうより下した一結むすたる。此名このなの二町人ふたごぶぶ商賣しょうばいする事ことと許ゆるまじむす。け地ちの風俗ふうぶく頗すこぶる江戸えど不ふ似にり。旅人りょじんああふふくく以もてて後のちにに對たいしてしてたる。其その處ところ對たいのさ海人うみびと柄がらををす。下したにに振びもも名な古ふる屋やのよよこ人ひとふふかかるるみみををり。家いえ店たなハ多おほく瓦葺わらじふふ。間ま板いた屋やふふ石いしをを造つくりたるも何なにの草葺くさじハ絶たてず。町まちハ堅か横よこは何なにりて町まち濶ひろく地ち圓まるく。下したあり町まちの中なか通り洞ほら二三にさん万まんの煮にふふくしたるハ本ほん通りあり。今いま夕ゆふ遊あそ女め町まち見みんんと宿しゆくのままと妻つま月つきふふく人ひとと舟ふねにゆゆららがけも崎さき乃のち町まち乃のち南みなみの端はたは寄よ合あ町まち丸まる山やま町まちとて二筋にすぢあり。店たな附つハ大おほきある格子こうしあり。肉にく小こ遊あそ女めも乃のち柄がらののちふふやや華はな麗れいしく化け粧ずいををて並なら居ゐつつおおまま燭たく臺たいといいくくももまますすぶぶららとと往い來りののち人ひと々々ああままくく集あひひくく伎ぎ格かく子こままも

すがりつ。我われささ地ち中ちゆうとと圓まるくく出でてて入いるる振びぶぶ大おほ坂さかの影かげ町まちふふ。遊あそ女めの衣裳いさうじやうハ紗綾しあや縮ちぢ緬めんの影かげと着きてたり。ささたたどどちち後のちにに小こ茶ちや屋やふふ入いり汲ひくす。妻つま女め女め世よの何なにととふふととああままにに美うれれててああふふつつかかあり。然しかるるふふずずりりてて藝ぎ子こをを呼よぶぶささるるよよ。衣い裳さもも事ことの外ほか粧ずいくく。粧ずい無むふふくく。足あし西にしくくるるややどどにに並なら屋やの半はん子こささららいいささくく。四よ十じゅう何なにまりりれれ女め出で来きるる。みみ頬ほももくくくく赤あかくく鼻はなひひくくくく打う平へいみみ額ひたい兀がああがりり額ひたい短たんくく。眼まなこ志し見みささががりり口くち白しろくく大おほきあるる小こ唇くちびるハ紅べにををままくく。ううみみぬぬもも齒はをを黒くろくくとと漆しやくららがが。粧ずい眉まゆハ剃そぐぐああわわりり打う入いるるよりよりいいささくく。ままままままののちああままりりらら事ことけけ此こゝ乃のち人ひとの中なかふふててもも殊ことふふをを一ひとままをを振びくく。詞ことば多おほくくいいひひつつけけててさされれかかすすハハ産う無むををははんんととああるる。人ひと々々けけ女めをを玩あそびびおおまますすとと飲いん興きやうををして



○卷六

五



長湯大徳寺
西中の風景

下り。彼海老屋。若船をこまより宿ひて宿小帰る。宿の裏。板屋。新妻
 こい。唐方の通事。此妻宅あり。適折。若舟り。酒を飲居るを知らず。
 主我を誘引。宿ひり。新妻。人柄よく。柔和して。能辯の人あり。主の妻
 ちみ。白形大抵。うつくし。二線を穿く。鼻と助く。舌面白く。酒出
 て。飲居小舟り。漸く。宴を罷り。る

○七日。午後。終日。降つ。て。お淋。こ。お。松。古。氏。種。く。宿。り。お。持。来。て
 宿。主。位。を。侍。ひ。例。の。烟。草。を。ふ。り。て。蕪。子。を。人。遊。女。を。人。を。招。き。て
 飲。宴。す。献。立

茶漬

味
あん
もの
もの

飯

盃

双葉

す
川
あ
ら
ま
ま
こ
こ

卓子丸形

小菜 多びのどぐ

同 太んのお漬

同 三
あぢ
ま
り
身

同 ちさのひ

大神 竹の子
花巻
うま
ま

どんあ
ま
り
神
大
こ
ん

どんあ
ま
り
神
大
こ
ん

かくのど。遊女ハ一人ハ川田屋の子舞。ハ二十一二あり。白形大
 抵。す。人柄。賤。か。す。瑠璃。の。弁。入。潤。一。寸。計。長。一。尺。二。三。寸。ある。又。瑠



長崎
柳谷氏
客席の
号



合セすく唐抄ていせう種しゅく出しゅし又またせきせき松しょうくく面白おもしろささりりたたとと宴えん
飲談話いんだんわ不ふ教きょう刺しををううりりてて夾くわ刺しはは烟えん宿しゆくせせりり今いま教きょうのの献けん立た

唐附

茶菓子

天門冬砂糖漬
名月餅 唐菓子

盃

長茶壺

油老
うまわこ
ふそつけ大ん

水せん玉子
志そ糖

吸物

細ひれ

四川

送り身
三味のり

坪

塩鴨
椎茸
ふしうが

小四川

葱
おご

吸物

あんまよ

魚のすり身
おろしほくまり

目

あんまよ
肉梅

茶漬

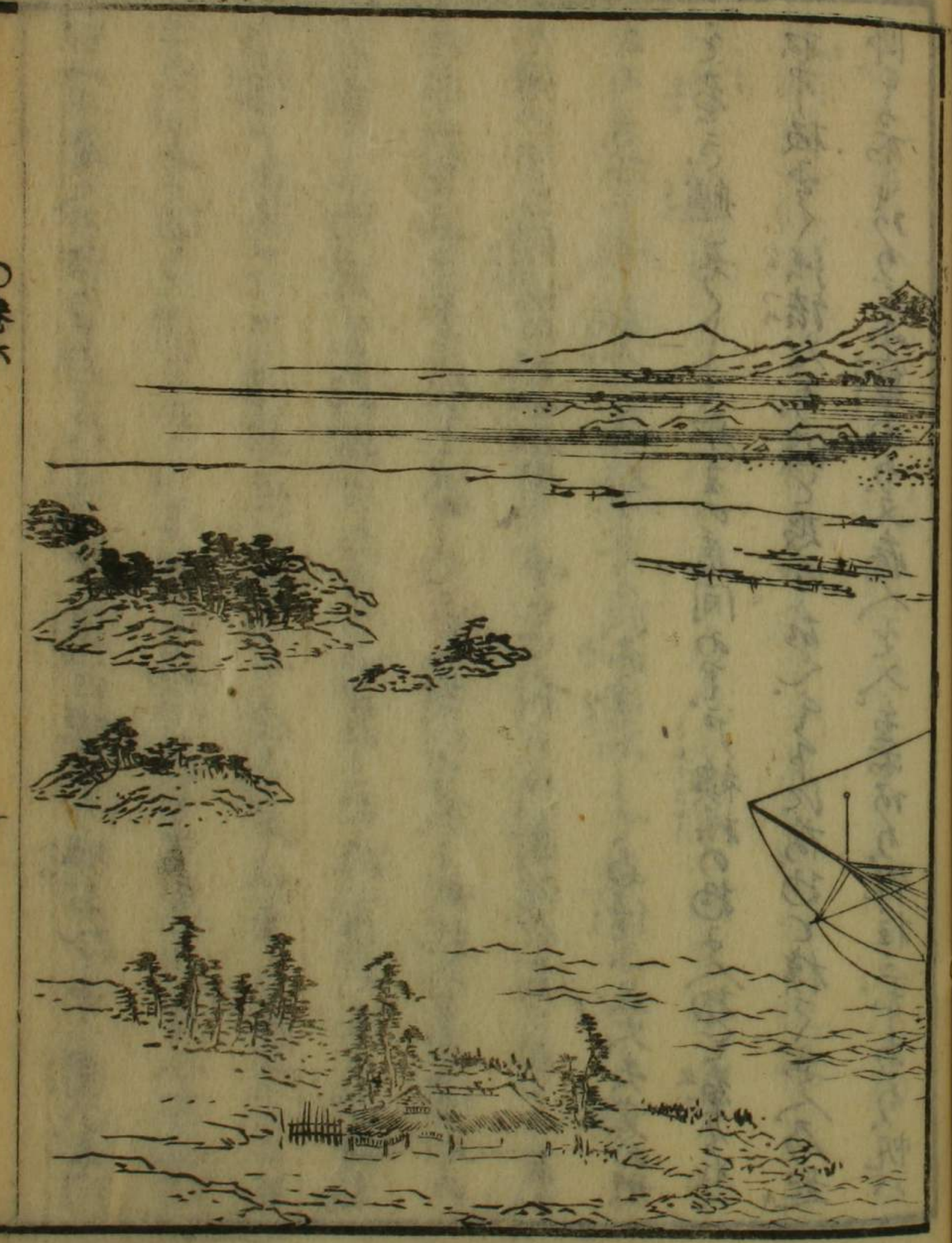
四あし漬

焼飯二

唐焼の小き
茶葉焼もある

かくのごとく

○九日空ハ晴ぬや面ガ一歇たればまふ素角させく阿蘭陀屋敷
を見ふゆ出流屋敷と云く江戸町より海中に一丁口計は築出石
橋を渡して通流す外門どのちり嚴寺の根子と云用の志門内小
入りを持出す銀中にささ子同計の旗竿のたてるあかる程小兩降
出まバ宿屋の親類本然町順産と云があよゆ唐人及唐船修理者
の役人等、若て材木買込を業とするああかくて又け順産も付云
出く唐船のりるあよゆ梅崎といふあよ繫まるとり道ふ十と云村と



長崎湊
 梅ヶ崎此風景
 此湊ハ常小
 外國船數多
 輪湊
 海中小連島
 其數を
 考へ



いふ。唐人の館あり。三方ハ空濤と接ハ竹垣移り塀ありと云く圍ハ表門
二の門とて二重に門をまき。唐人番の役人これを守居り。唐人三戸門
乃隣に立居りしに順義近づきありて唐音申し何事ふと語りて
首肯て二の門乃ち入り何事ありしと順義は尋ねば後刻来るべき時を
船頭知しせむられし印しを表門の前は制札あり。満くの
一條の中ハ傾城の外女入會うすまひあり。阿蘭陀屋敷も同一事
あり。玉梅ヶ崎ハ船頭ある唐船をみるに赤塗ありてあ傍ハ石火矢窓の形
を畫き。艦高くして船主の居間あり。戸襖板の扱ハ人物と畫たり。
船中板多く張詰たり。波と怒りたて。舟下に荷物と積く。舟人乃起
脚もる。舟もりり。舟竈あり。又病人を入。舟雨あり。帆柱三本あり。帆ハ

篋の葉を双づく。船の板は編る竹と以て。あありありとさみたる扱あり。
椀欄繩の徑廻り一尺五分寸とある。丸友の徑も何り帆柱と巻る
輓轆ハ二回計の丸木と横小波たり。舟の洞六回長二十回あり。細
工もよく友粗縫あり。空船あり。舟長崎より番人一人つゝ居て是
をせらる。舟中ハ張板あり。舟は洋舟より封印をつけらる。舟雨
やして午の刻に空も晴し。舟はた晴るあり。是は富山とゆふ。
○十日空快晴す。けけ北の人と小お識あり。宴飲談話の楽し。小
森島の洛寮さそと。舟は今日より。ハ船中の遊びをなさんと約
せし。舟と果す。舟人ハ柳若新と名。舟中ハ舟師。舟老屋長助。舟中
順義。田崎屋守と名。舟外。藤子ハ國吉。市原。舟子二人料理人あり。



長崎の
北船場



けて町に出せば、大神宮の遙拝あり。聖堂あり。まはらるる
 ありけ寺のよのち東海氏乃墓あり。三版石垣と築て
 石版と立一版とふと畫一たる彫あり。敷石やふ至ると其
 細工の精巧あり。筆紙もあきれぬ程あり。近以、取張ふべき人も
 多也。懐弘破換したるおももす。け北の唐風のうほりてや。墓あり
 殊小舎と入る。取廻したる山々の内ふも多し。松木林天祚の社
 本社お殿す。構作の振華好し。諏訪の社。古人是と氏林とて美を
 盡して宗奉す。おまをる社。八位。志。諏訪。森崎の二社。神主ハ青木
 大宮司。一もの受用記七。黄目計。町中及唐人よりの音物。三振。黄目
 計。す。く。百。黄目計。と納む。といふ。き。番。も。集。計。番。も。集。て。石。の。も。集。

ニツ。院。道。三。百。版。を。登。る。間。若。左。石。の。版。と。立。は。く。り。り。隨。身。門。徒。新。産。
 廻廊。お殿。本社。皆。松。は。葺。之。か。て。宿。も。留。り。て。未。刻。以。り。海。老。を
 召。助。方。招。れ。け。く。卓。子。の。饌。具。唐。風。の。各。意。を。好。し。く。讀。て。
 飲。燕。談。話。の。後。團。基。の。遊。び。を。て。戌。刻。以。り。留。宿。す。け。日。の。献。立。

菓菓子 状粒 丸やう
 雪輪

魚 三ツ紐

舟盛

吸物 朝ひれ
 えんぶ

同 大い
 内梅

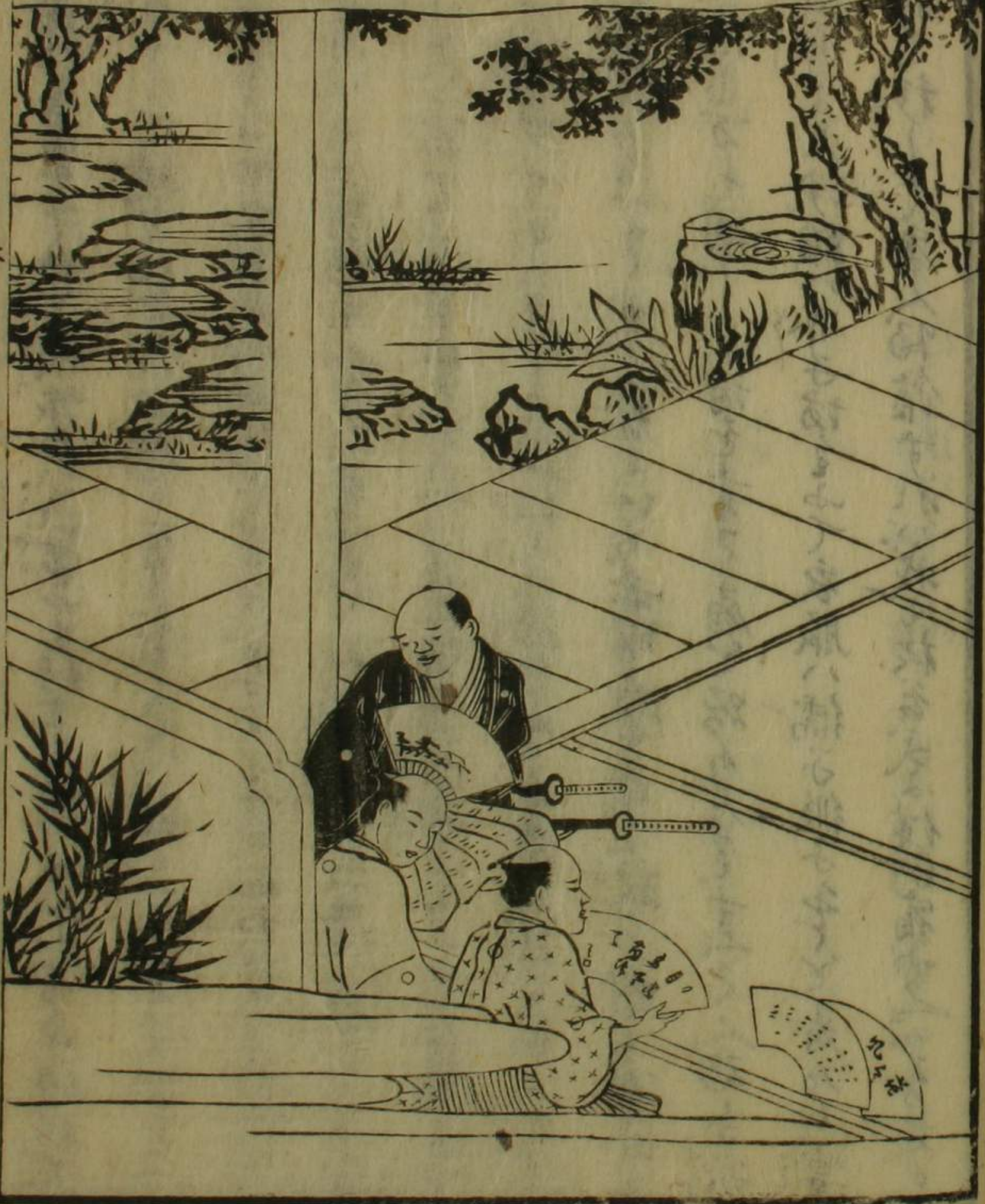
菓子

小菓 鯛切身
 白うま

同 香の梅
 丸 大い

同 大い
 十多び
 ちまつけ大い

長崎 聖徳 方丈 小 寺
程 人
書 面 赤
堂



○卷六

十七



英國の言葉にて種々談話ありけり。亦も何多、挨拶めきたる。や、われど
言ひて、曉りぬる。心海す。言えお。た、殊しく。を。一
無と。言え。り。板谷氏の通詞。て。ま。け。は。是より。乃。程。何。程。何。あ。い。人。を。と
同。ふ。り。り。二。百。餘。里。を。を。言。え。す。れ。は。清國の我等。縣。を。と。も。
是より。二。百。里。を。言。え。り。され。は。二。百。餘。里。の。出。合。を。り。て。ま。は。は。び。ら
板。谷。て。謹。笑。す。わ。ら。き。と。り。紅。毛。の。海。を。出。て。唐。人。酌。を。取。て。懸。は
す。む。酒。の。力。は。ぐ。少。く。若。き。り。赤。城。扇。を。出。し。親。の。詩。を。書。て。予。ま
贈。る。潘。占。方。も。同。く。詩。を。書。て。扇。を。贈。り。た。ま。す。と。人。物。も。柔
和。温。厚。よ。見。ゆ。頭。ハ。芥。子。坊。主。ふ。て。衣服。ハ。襦。子。緋。子。を。と。着。たり。宴
飲。時。を。移。し。て。唐。人。留。館。す。れ。ば。我。も。板。谷。氏。に。候。い。宿。ふ。り。と。言。ふ。か。

久左衛門のあふ招き進んで、談話時を移して、亥刻には宿ふかりて
少時して雨降出ぬ。

○十日終日雨痛く降く止まず。鬱々として懸坐するのみ。

○十五日滞留日暮りて、遊ひの具も己に盡されば、憂鬱用盡せんと
す。い。ま。も。や。ま。す。候。き。て。妨。げ。を。お。す。や。な。ら。う。と。思。ひ。言。ひ。

○十六日夜更す。わらわらありたれば、晝のよりも出立。一。と。く。荷。物
ふ。ぐ。取。扱。せ。て。晴。し。し。は。旅。取。の。行。き。旅。人。方。の。役。場。へ。も。け。趣。向。せ。り。す。兎
角。も。程。ふ。ぬ。又。大。に。降。雪。も。ハ。せん。方。を。く。一。と。今。日。ハ。滞。留。一。と。昨日。を
大。雨。あり。早。朝。より。立。一。と。定。め。り。と。用。を。せ。り。て。所。へ。ぬ。

○十七日大風大雪と川もあき増りて、渡りかこきし。し。り。お。ま。は。び。は。ぬ。

料はたす。

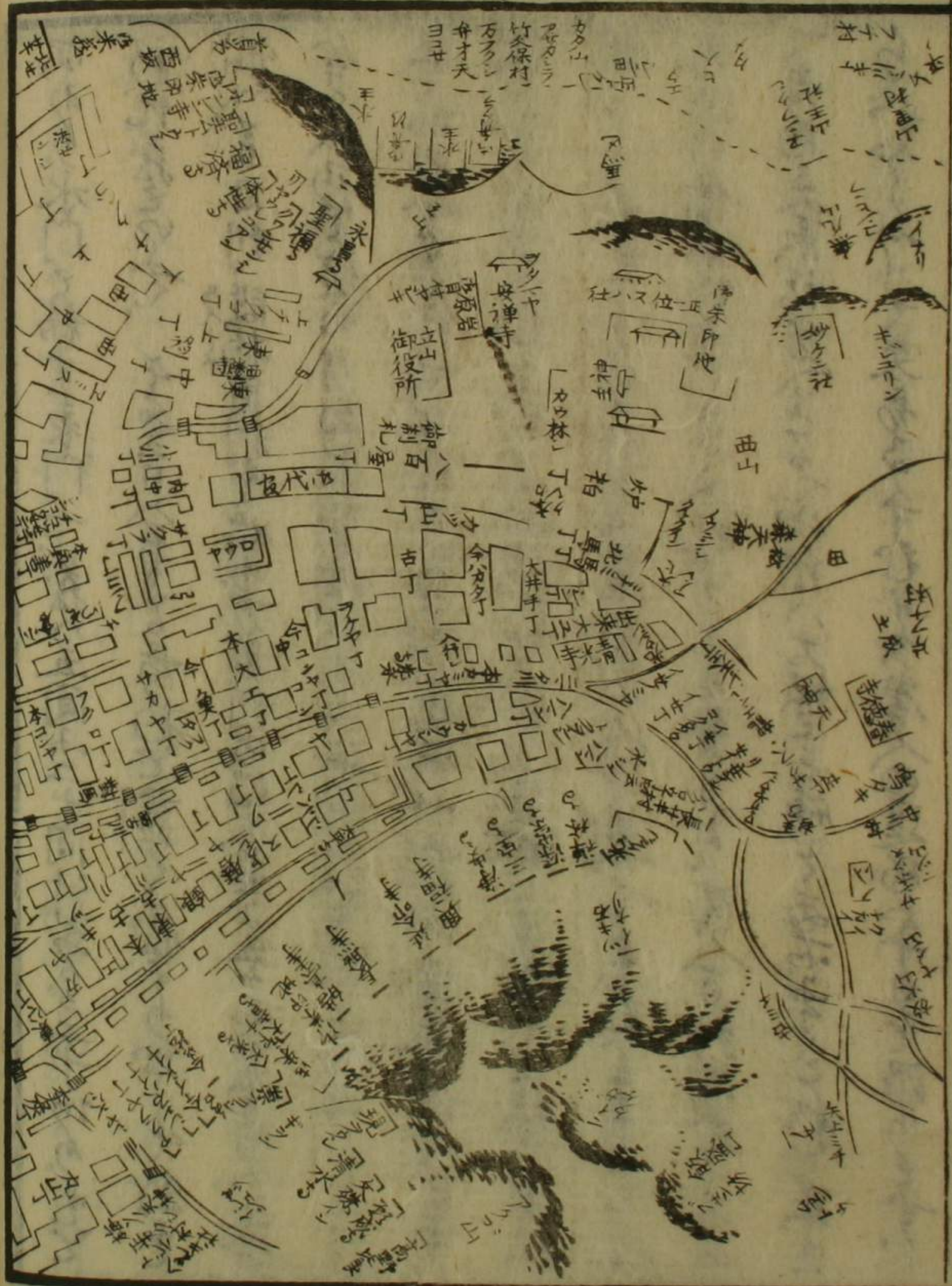
○十八日、地ははききてより十餘日の不晴、天は唯二三日、少くも、
雨ふの、あま、とけ、雨彼、あふ、飲宴、ふ、招き、
延きて、こせ、ふ、十官、より、留給、の、用、ま、かり、ぬ、ふ、兎、角、は、霖、雨、に
ぬげら、きて、鬱陶、と、て、晴、を、待、ま、び、あ、ら、ふ、晝、は、や、り、く、雨、歇、
て、空、も、晴、れ、ば、ん、も、晴、や、り、ぬ、明日、立、て、用、意、あ、つ、定、め、並、ま、て
臥、ぬ、此、地、の、名、積、同、安、ら、る、あ、ま、さ、り、也、ハ、列、子、記、録、し、た、る、也、あ、ま、さ、
こ、ま、は、多、く、ハ、淺、し、つ、料、ま、大、陸、と、い、ふ、也、唐、船、入、津、の、湊、ハ、筑、前、の、管、
領、と、糸、州、の、堺、と、あ、ま、さ、く、あ、ま、し、と、い、つ、乃、以、り、肥、前、の、平、戸、小、船、を
つ、ら、く、咬、啣、巴、阿、蘭、陀、モ、オ、ル、舟、也、上、年、久、し、く、平、戸、は、つ、きて

交易、一、年、も、つ、と、寛、永、年、中、は、長、崎、へ、引、取、ら、せ、給、ひ、こ、も、り、ハ、入
津、す、ら、事、た、と、す、是、け、地、繁、昌、の、来、由、也、元、來、け、ハ、深、江、浦、と、い、ふ、漢、浦
ふ、漁、人、の、住、ら、る、所、也、然、を、か、く、美、國、着、船、の、湊、繁、昌、の、地、と、い、ふ
つ、けて、諸、國、の、商、人、進、く、不、寄、集、り、て、遂、亦、所、屋、と、い、ふ、所、也、され、所、の、名、
を、國、邑、の、名、を、つ、け、た、る、多、し、五、島、町、平、戸、町、大、村、町、島、原、町、江、戸、町、筑
後、町、等、之、最、初、ハ、町、人、の、月、ふ、船、中、に、貨、物、を、ま、さ、の、同、屋、也、り、て、交、易、は、る、を
取、扱、ひ、口、荷、と、取、の、こ、あ、り、を、公、儀、百、と、い、ふ、り、を、わ、り、ハ、中、以、り
事、と、入、海、の、廣、さ、僅、一、里、也、と、深、し、岸、より、一、丁、先、と、ハ、阿、蘭、陀
船、を、し、轉、あり、阿、蘭、陀、船、の、大、さ、を、日、本、風、と、積、ら、ハ、大、抵、也、を、石
積、と、い、ふ、一、里、町、乙、名、也、月、行、使、ハ、其、家、定、り、て、相、續、し、て、これ、を

勤心組の八町内より入れを以て定む。唐船入津する時八奉り前より檢使一組通すの中より十人以内の舟切子と改め荷物積りの申状を取て踏繪をさせたるを以て替るるをなく交易すべしと許さる。舟切子の渡海交易滞りなき旨の許し一書の有る彼おふく是と信牌と稱す踏繪の切支丹の画像と彫つけたる銅の板、厚さ一寸計、潤六寸計、長さ八寸計あるを此地を始め九州の内と指廻り、法人ふこれ踏せき宗門の改めをする事ありされば英國人先んけ候とあきしめてきき荷物を許さる事とてさて是翌日荷物を揚是と丸荷役といふ何れなる荷と、新地の義あり入る事とて新地は二丁四方計は海中は築出とて橋を以て通路す海の手は嘉門

口あり水門と稱す表門一、義ハ五間ハ二十間計あるが二十あり是と新地義といふ。是翌日入るる荷物を盡く積り出して船を調へ、兼日利段荷目利を始め、万目利の役人並に五ヶ所の本商人を合て入荷風儀の斤数を改め極む是を精荷役目利とせといふあり。五ヶ所の本商といふハ、京江戸大坂堺長崎、けふ所の富商入札株を申請せしめて二十人計して入札を以て貨物と買受る大坂を以て法國へとるは是五ヶ所の系割符を案一人つて更く是地ふを審す。各出張の會所あり。さて入札するは翌日より、商人が新地義のおふて荷物買取法ありとる。代船ハ大坂を長崎とありてこれと取らるがやうにして交易するむより、唐人の逗留六十日を限りす。

肥前長崎之圖



稲佐がき
 水ノ下
 ワレ石
 クシラトウ
 オランダエンシヨウグラ跡
 悟真寺
 エノウラ
 イナササキ
 カラス岩
 上ノ原
 平戸小マ
 水ノウラ
 せノワキ
 エビス社
 アクノウラ
 ハタカシ
 シホガマ
 イワセトウ
 身ナチ
 立カミ
 西トマリ
 御番所
 遠見中ハン所
 小セ戸本村
 道生田
 御用エシヨウ屋

大夕千 一ハ石火夫タイ
 天門峰 男神
 イカツ ミン石ヒヤタイ
 神崎大明神 姥カ懐
 白夕石 銭ハシ 菊シ
 上ノエ
 尾郎シ
 カフトシ
 トンカウシ

タカホコ
 五ハシ
 マツシ
 浦ノ
 神
 河

唐船の入津する事、十艘を限りと定められたれど、年よりして八十
五艘入津する事も、又た七八艘止る事もあり、唐船一艘の荷扱ふ
常乃價を定め玉ふ、銅を渡し玉ふ、月銀百五十九貫目と決
して、在留の費用遊女等此價を以て修り玉ふ、煎海參、干鮑、乾ん
昆布、こさるのり、銅の器物、齋行を以て引當らぬとぞ。
唐人共荷扱ふ見せ修理するも、銀を出る時、宿所附町といふ二
町引替て、并當と被へ出、法用と弁ず、是ハ住昔唐人共町宿せし
時乃例よりなるなり、阿蘭陀は六月、阿蘭陀船は六月中旬
より七月中旬までの内に入津するあり、されば五月中旬より法は遠見
を盡す、五六十里沖の所を、おんゆき、はなす、仍て申し告、九州法侯の

當る唐の役人、一山け奉て、浦くちを電をす、之と相、漸く近附、
又、二里、いふふ、おなりぬ、時奉行あり、檢使、通事等掛の役人、小舟に乗て、
白赤紺のき、此幟を多く出迎ふ、彼も、同色同敷の幟をたつ、是で
旗合せの、旗合せ違ふ、なき時、湊入を許す、湊入破を被りて
役侯の心、さく、二三貫目の石火矢を十六七枚、す、そ、古か、ざん、と、新ひ、じん
と相見、應對して、ま、荷扱と、い、入れを、入、せ、銅を、渡、し、玉、ふ、事、大、形
唐船、同、一、波、の、一、陶器、や、の、物、買、入、く、積、留、多、あり、阿蘭陀、舟、乗
經の、役、人、か、び、じん、魚、頭、筆、者、外、科、業、針、扱、等、あり、
そ、か、下、賤、の、志、舟、働、を、し、する、事、と、ま、す、と、い、ふ、下、令、し、て、石、使、ふ
と、と、く、ろ、が、う、と、い、ふ、を、ま、す、と、い、ふ、事、記、す、と、く、百、三、年、人、唐、船、の、役、人

石を積合せて掛り申中も酒屋町の橋ハ川の中程小石を墨と才
鳴と集めてあまより石橋をかけた水は映まる影とす目鏡の形を
あせるが目鏡橋と称する殊小橋しむぐけ地のすハ七橋は雪橋
表細くれハその記さ。逗留の内ふす傳へる阿蘭陀の方案。

ラフメントウのあ。 紅花ニ多。 明礬ニ多。 右洗糸あり。目をあらしハ又
法囊痒さを洗ふ。炭やう糸のごとく。 ペリプス法。 黄柏ニ多。

楊梅皮ニ多。 枯礬ニ多。 右細末一酢みて調り。痛おし貼て痛は
妙。 バジリユシのあ。吸出りの膏薬。 胡麻油ニ多。 鹿油ニ多。

雞油ニ多。 チヤンニ多。 松脂ニ多。 黄蠟ニ多。 右油ニ品を一兩小
煎ト大沫消て小沫よあると度にして。チヤンをいさねやちといは蠟を

いれて布をぬの さらしてうす 攪拌かきまぜ かくる是よりハ安藝國を
廻る但るも互寄る。丹後路小廻りて廻ると定む。

筑紫紀行卷六終

